

ふるさと観光マップ 長後めぐり 資料編その2 長後天満宮コース（約6kmのコース）

仙元塚



この塚は富士宝永山爆発（1707年）の時の火山灰が田や畑に積もったのを掃き集めて所々に小高く積んであったものを慶応2年（1866年）に富士講の人々によって建設され高さ3丈（約9m）周囲23間（42m）面積25坪となり富士塚と改称する。昭和50年の区画整理で広さ3坪となり貴重な遺跡として保存され仙元塚となる
蝶の舞ふばかりのどかの日影哉 芭蕉

長後天満宮



平安時代後期永久3年（1115）に渋谷庄司重国の祖父秩父六郎基家が秩父から渋谷の庄に移り築城しその城内に菅原道真公を守護神として勧請したものと云われています。重国の次男の渋谷次郎高重の領地であった時、和田の乱が勃発して（1213）敗北した和田義盛に加担したため領地は北条義時に没収される。その後いく度の戦乱のため社殿が廃損したが、江戸時代に入ると旗本で朝岡氏の四代目、朝岡久兵衛泰勝は徳川家光の代に金銀奉行に任じられて勤務を勤めこの地（下長後に200石）を知行した。寛延4年（1751）泰勝の子孫朝岡久兵衛国豊がこの地の所領を得ると永年戦火等で荒廃した社殿を再建する。また天明7年（1787）国豊の子朝岡左京豊興が社殿を修復。慶応4年（1868）には神楽殿が造営され明治元年には村社となり長後村の総鎮守となった。大正8年には拝殿が新築され、昭和56年に本殿、拝殿とも銅板屋根に改修された。



石造り狛犬（市指定有形民俗文化財）
貞享3年 中村氏の女おち世

庚申塔

長後2417先



庚申塔
二十三夜塔

ポピー・ひまわりはたけ



長後憩いの森



代官山遺跡



蓼川と綾瀬川との間に挟まれた舌状台地の斜面に有り代官山横穴群（古墳群）と呼ばれる。そのうちのいくつかは太平洋戦争中に破壊されたがこの時に出土した「長頸壺」が残されている。県立長後高等学校（現 藤沢総合高等学校）の建設時に約30000～16000年前の地層から多量の石器が出土した。出土品は約3500点、横穴墓14基、細石刃の出土量は南関東屈指。昭和33年には新たに3基の横穴墓が発見された。よこあなは凝灰岩を削って構築されているが、直刀、刀子、耳環、須恵器などが出土しており奈良時代後期のものと推定される。

藤沢市郷土歴史課より

熊野神社



熊野社は天文8年に当地の鈴木内匠なるもの熊野本宮大社より御合霊をこの地に御祀り申し上げ御社殿をご造営したと言われている。その後、寛文11年に再建があり現在の社殿は文政13年に造営されたものである。相模の国風土記によれば、上土棚鎮守とあり地頭、遠山清右衛門の寄進の燈籠と狛犬の石像もある。

*御祭神；速玉男命、伊邪那美命、黄泉津事解男命。

境内、案内板より

長後市民センター



長後市民センターは昭和31年に殖産学校を改造し長後支所としてスタートした。これを記念して植樹されたソメイヨシノは、樹高10m、幹周2.5mの古木に成長し長後のシンボルとして地域の人々に親しまれている。また同敷地内には、各所から集められた石造物が置かれており、その一基、一基から長後の民俗信仰や生活を偲ぶことができる。

藤沢文庫刊より